



増刊号（2026年3月30日発行）

発行：四国手話通訳問題研究会（四通研）

## 四国手話講座担当講師研修会開催

2026年3月8日（日）、愛媛県視聴覚福祉センターで第15回手話講座担当講師研修会が開催されました。この研修会は、四国ろうあ連盟（四ろう連）と四通研の共催で毎年開催しており、今年度は75名（四ろう連32名、四通研43名）が参加しました。

この増刊号では、研修会の内容を報告します。まずは、午前中に開催した全体会の様子です。



### 【全体会】

講演『続けられる手話講師、信頼される手話講師  
—無理をしない、独りよがりにならない—』

講師 高塚 稔 氏

講師の高塚さんは、現在、堺市手話講師団の責任者ですが、他二つの肩書きでは次長という位置でサポートされています。（堺市ろうあ者・手話関係団体協議会事務局次長、手話講師派遣等運営委員会事務局次長）

講演では、手話講師に求められる資質・知識等がまとめられており、講師の力量のバラツキは仕方が無く、支え合うことが大事で、「設計の問題」もあるとのことでした。

その内容説明の前に、私たちの頭の中には「スクリプト」という思い込みや「無意識の台本」があって、慣例に従い反応・判断していることが多いが、そうではなく、みんなて話し合う→決定→実行→振り返る→責任を共有する→再び話し合う→…というサイクル=設計に変えていく必要があると説いていました。

このように、一人で抱え込まず、チームで動く人になりましょうと話されていました。だから高塚さんはサポートの位置にいらっしゃるのだと思いました。

最後に、手話講師は技術だけでは生まれない、仕組み（ガバナンス）と姿勢から生まれますとまとめられ、「学んで語り 笑いてつなぐ 七十路の道」という言葉で締めくくられました。



午後は、分科会として参加者が奉仕員養成（4グループ）及び通訳者養成に分かれ、討議を行いました。それぞれの座長からの報告を裏面に掲載します。

## 【手話奉仕員】

午後のグループワークで手話奉仕員養成3・4の座長を担当しました。まず、「私たちの講座はどんな空気？」のテーマで講座の様子、講師団会議の持ち方、事前の打ち合わせはできているか？など意見を出し合いました。各県タイミングはまちまちですが、事前の打ち合わせを丁寧に行っている様子が伝わり、受講生に分かりやすく進めたいという気持ちは共通していることが分かりました。



2つ目のテーマ「10年後も続く講座にするために変えられる一歩は？」では、講師の後継者・若年講師を増やす。受講生が受講しやすい環境（託児所など）を整備する。講師がお互いに本音で話し合える場を設ける。など、一部の人の負担が集中しない運営を目指し、長く続く講座にしていくための工夫や取り組みの大切さを共有することができました。

香川：河崎好子・香西千絵子

第1・2分科会を担当し、奉仕員講座の実態や準備についてなどについて多くの意見を交わすことができました。「10年後も続く講座にするために変えられる一歩は？」では、後継者を育てる工夫として、経験を積むこと、若手にも体験してもらい、声を掛けて誘っていきたいといった意見がありました。また、中堅の講師が動けることとして、過去の資料の蓄積を役立てる、講師団で共有するなどの意見がありました。



多くの意見を聞いて感じたのが、集団で検討することの重要性です。講師を続けるにしても、講師としての力量を上げるためにも、個人だけの力では限界があります。集団で支え合うことは、講師の力量を上げるだけでなく、講座の質を高めることにもつながります。各県の講師団がその役割を認識し、集団で検討していくことを続けていけると感じました。

徳島：大野 剛・高田 浩次

## 【手話通訳者】

自己紹介後、「育てたい通訳者像」について話してもらいました。

- ◎誰に対しても公平に見ることができる倫理観を大切にする人物
- ◎技術や知識に合わせて社会を見る目を高められる人物
- ◎信頼される人物
- ◎ろう者と関りを多く持つ人物
- ◎どんな場面でも対応できる力をもつ人物

お互い意見を聞き、共感しさらに話が盛り上がりました。

次に、養成講座で難しいと感じるところは

- ◎受講者のレベル差がある：これはろう者とのかわりの多さが関連する
- ◎一つの正解にこだわり、その正解を求める：奉仕員養成の段階から地域の手話も指導していく

このことはテキストや指導書もスクリプトであり原因ではないかという意見も出ました。

四国手話講師研修会は15回目となりました。今後も四国の講師が課題や悩みを出し合い、高め合うために継続して集い、研鑽していくことが大切です。

高知：竹島春美・中平真弓

